

アリス=紗良・オット ピアノ・リサイタル *Alice Sara Ott*

ドビュッシー：ベルガマスク組曲
C.A.Debussy : Suite bergamasque

ショパン：ノクターン
F.Chopin : Nocturne

- 第1番 変ロ短調 op.9-1
No.1 op.9-1
- 第2番 変ホ長調 op.9-2
No.2 op.9-2
- 第13番 ハ短調 op.48-1
No.13 op.48-1

ショパン：バラード 第1番ト短調 op.23
F.Chopin : Ballade No.1 op.23

ドビュッシー：夢想
C.A.Debussy : Réverie

サティ：グノシエンヌ 第1番、第3番
E.Satie : Gnossienne No.1, No.3

サティ：ジムノペディ 第1番
E.Satie : Gymnopédie No.1

ラヴェル：夜のガスパール
M.Ravel : Gaspard de la nuit
(予定)



美しいカッコいい
ピアニスト！

2018 9/24(月・休) 14:00

日本特殊陶業市民会館フォレストホール

S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 学生 ¥2,000(税込)

学生券
26歳以下
学生証提示

中京テレビ事業HPよりエントリーしてください。公演1ヶ月前に抽選の上、ご登録メールアドレスに当落のご連絡をいたします。エントリー開始は一般発売日以降となります。
※一般席と並びてご購入されたい場合：公演1ヶ月前に残席がある場合に限り、並びでご予約いただけます。
詳しくは中京テレビ事業までお問い合わせください。

- プログラム内容、出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

©Jonas Becker

お問い合わせ
お申込み 中京テレビ事業 ☎052-588-4477
(月～金 10:00～17:00 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp/> 中京テレビ事業 検索
座席表からお席をお選びいただけます！

6/2(土) 一般発売
10:00～

中京テレビ事業チケットセンター	052-320-9933
チケットぴあ(Pコード 113-112)	0570-02-9999
ローソンチケット(Lコード 46361)	0570-084-004
愛知芸術文化センターPG	052-972-0430
栄フレチケ92	052-953-0777
e+(イープラス)	eplus.jp http://r-t.jp/
楽天チケット	052-561-7755
名鉄ホールチケットセンター	セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート店頭

アリス=紗良・オット(ピアノ)

Alice Sara Ott (Piano)



©Jonas Becker



【アリス=紗良・オットのショパンとフランス作品を聴く—それは磨き抜かれたピアニズムから作品のすばらしさを受け取り、ともに音楽の喜びを味わうこと】

アリス=紗良・オットのピアノは、主張が強い。楽譜から読み取ったものを存分に咀嚼し、自身の感情、解釈、表現を熟成させ、ひとつひとつの音として生み出していく。その演奏には、作曲家の魂に寄り添い、作品のすばらしさ自分の音で伝えようとする強い信念と情熱と使命感が宿っている。

アリスは子どものころから「自分のアイデンティティー」について悩んできた。ドイツ人なのか日本人なのか、自分は何者なのか、さまざまな悩みが彼女の内面にずっと居座り続けた。しかし、ピアノを弾くことで自己を表現する手段を得、心が解放された。そんなアリスのピアノは情感豊かで雄弁、聴き手の心にストレートに語りかけてくる。そこには、彼女の人生哲学が映し出され、聴き手に勇気を与える。

「私はここばで自分の意志を伝えるよりもピアノの方が的確に伝えられます。聴衆とのコミュニケーションに熱い感動を得ることができます。以前は悩み多き人間でしたが、いまは迷いはありません。ピアノで人々との交流ができ、自分の音楽を理解してもらえるからです。特に日本の聴衆とのコミュニケーションは、私にとってとても大切なものですから、常に新たな作品で日本公演を行い、私の成長を聴き取ってほしいのです」

今回は、子どものころから愛奏してきたショパンに加え、新たなレパートリーが登場し、フランス作品で真価を問う。フランス作品に内包されたエスプリやウイット、ユーモアなどの繊細かつ微妙でニュアンスに富む表現をアリスがどう描き出すか、興味は尽きない。

「私は新たな作品と対峙するとき、リスクは怖れません。これまでコンサートや録音に際して新しい作品と向き合い、どうしても納得いく演奏ができず、深く落ち込むことも多かったのですが、この新しい扉を開けることができれば次のステップに進むことができる自分にいい聞かせ、歯を食いしばって練習してきました。日々、試行錯誤の繰り返しが、それが音楽家の道なのです」

アリスのショパンとフランス作品を聴く—それは磨き抜かれたピアニズムから作品のすばらしさを受け取り、ともに音楽の喜びを味わうこと。さあ、至福の時間を過ごしましょう!

音楽ジャーナリスト 伊熊よし子